

梅田千尋

■「東京大学史料編纂所社会連携研究部門自治体史テキスト検索および編纂史料閲覧システム：ADEAC (A System of Digitalization and Exhibition for Archival Collections) の紹介」

東京大学史料編纂所社会連携研究部門では、公共図書館などに所蔵されている歴史資料(史料および編纂刊行物)をデジタル化によって活用するシステムの開発に取り組んでいる。ポスター発表では、その成果である「自治体史テキスト検索および編纂史料閲覧システム(ADEAC)」β版の概要について紹介した。

ADEACでは、現在『石川県史』第二編(昭和3年刊)を電子化し、PC上で本文の全文検索・閲覧機能や、年表・人名による検索、典拠となった古文書の所蔵データ(史料メタデータ)や史料画像とのリンク付による拡張的な表示が可能となっている。また、今後は同県史の他巻や他の自治体史との横断検索を視野に入れている。近年、自治体史のデジタル化・インターネットでの公開に取り込む事例がみられるが、複数タイトルの横断検索・閲覧という水平方向への拡張、および典拠史料の電子情報とそこから導き出される歴史情報・編纂成果を結びつける垂直方向への拡張可能性が本システムの特徴である。

コアタイムでは、ノートPCを利用してADEACの実演を行い、検索・閲覧システ

ムの機能について紹介した。参観者からは、データ形式やメタデータ間の検索機能実装の見込み、管理者によるデータ修正の可否など、技術的内容にも踏み込んだ質問・ご感想を頂いた。こうした声を活かしつつ、社会連携研究部門では、引き続きADEACの実用化に取り組む予定である。

なお、本部門は2010年 - 2012年度の3年間史料編纂所に設置される産学連携部門であり、プロジェクト参加企業（大日本印刷（株）・（株）図書館流通センター・丸善（株）・（株）雄松堂書店・（株）コンテンツ）との共同研究を行っている。また、石川県立図書館とも協定を結び、館所蔵史料の目録・画像データ作成について協力を得ている。

（東京大学史料編纂所社会連携研究部門）